

研究分野	漁場環境	部名	浅海環境部
研究課題名	漁場環境監視調査		
予算区分	国補 (県 1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	H.12 ~ H.16		
担当	今井 美代子		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

漁獲対象生物にとって良好な漁場環境の維持を図るため、陸奥湾沿岸域における水質環境の現況を調査する。また、生物モニタリング調査（底質調査を含む）を行うことによって底泥中に棲息する生物（マクロベントス）の種類・現存量を指標とし、陸奥湾沿岸水域の漁場環境の長期的な変化を監視する。

〈試験研究方法〉

1 水質調査

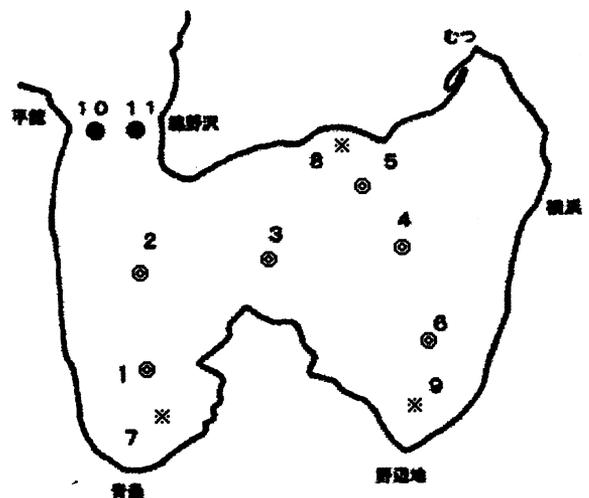
- (1) 調査海域 陸奥湾内 St. 1～11 の 11 定点
- (2) 調査回数 毎月 1 回
- (3) 調査方法及び項目

気象、海象、水色、透明度  
水温、塩分、D0、pH、栄養塩

2 生物モニタリング調査

- (1) 調査海域 陸奥湾内 St. 1～9 の 9 定点  
マクロベントスは St. 7～9 の 3 定点
- (2) 調査回数 7, 9 月の 2 回/年
- (3) 調査方法及び項目

気象、海象、底質（粒度組成、COD、TS、IL）、  
底生生物（マクロベントスの個体数、湿重量測定、  
種の同定、多様度指数）



●:水質調査地点 ◎:水質・底質調査地点  
\*:水質・底質・底生動物調査地点

〈結果の概要・要約〉

底層の D0 は年間最低値が St. 5 の 9 月の 5.88mg/L、このほかはすべて 6mg/L 以上で、平成 16 年度は貧酸素状態はみられなかった。

栄養塩の推移は、概ねこれまでの変化範囲内で、全湾の平均値でみて、NO<sub>2</sub> が 12, 1 月に、PO<sub>4</sub> が 11, 1 月に SiO<sub>2</sub> が 1 月にこれまでの最高値となる高い値を示したものの、比較的レベルで推移した。

底質調査、底生生物調査結果ともこれまでの範囲内であった。

〈今後の問題点〉 陸奥湾内の栄養塩レベルとホタテガイ成長等との関連性追求。

〈次年度の具体的計画〉 調査の継続、底層の貧酸素状態の監視強化。栄養塩分析結果からの陸奥湾内の餌料環境の詳細な検討。

〈結果の発表・活用状況等〉

- 平成 16 年度漁場環境総合監視調査報告書作成予定
- 平成 17 年度漁場環境保全推進事業東北ブロック会議で報告予定
- 平成 17 年度漁業公害調査指導事業検討会で報告予定
- 平成 17 年度漁業環境保全総合美化推進委員会で報告予定

〈主要成果の具体的なデータ〉

